

はじめに

今、日本株が熱い！

今、投資すべきは日本株です。

「日本はもう終わった」「人口減少だし、ITでは出遅れたし、株価が上がる要素がない」などと言われてもいますが、そんなことはありません。

むしろ今ほど、日本株に投資すべきタイミングはないと言っても過言ではないほどです。

そもそもこの1年間の日経平均株価の伸びがそれを示しています。

昨年、2022年12月末の終値が2万6094円であったのが、その後急上昇。本書執筆時点での最新値、10月13日の終値は3万2315円と、約24%も上昇しています。

2022年末から2023年の日経平均株価チャート

— 移5日 — 移25日 — 移75日



— 移5日 — 移25日 — 移75日



出典:日本経済新聞「日経平均株価」

※2023年10月時点での内容

日本の株式市場がもう本当にダメなら、どうしてこんなことが起こるのでしょうか？

この日本株に対する再注目のはじめは、2023年4月に「投資の神様」と呼ばれているウォーレン・バフェット氏が来日し、「日本株の追加投資」を宣言したことにありました。

バフェット氏の投資手法は「安く放置されている銘柄を買って、値上がりしたら売る」というきわめてオーソドックスなものです。それもあくまで優良な株が安くなったときに投資する、典型的な「バリュー投資」でリスクが低いとされます。投資するのはあくまで優良株に限られます。

近年、バフェット氏が大きな勝負に出たのは、2008年のリーマンショックの翌年のことでした。株価が大きく下落したゴールドマンサックスの株を爆買いして大儲けしたのです。

よほどの割安株がなければ大きな買いを入れないバフェット氏による「日本株を大量に買い付ける」という宣言。彼が株式投資に積極的になったのは、2009年以来、

実に14年ぶりのことです。

これが意味するのは、「日本株は企業価値に比べるとあり得ないほど安い」ということにほかなりません。

2023年以降、日経平均が上がり続けていてもなお割安のまま放置されている。それが日本株の実情であり、今、日本株投資を始めるのが大正解な理由なのです。

投資は「長期」が原則と考えよう

ところであなたは投資に何を求めていますか？

短期間でガツン！と大きく儲けることでしょうか？ あるいは将来に向けて長期的に資産を作っていくことでしょうか？

私は投資の目的の善し悪しは、自分で決めればいいことだと思っています。

株式投資の初心者の方は、できるだけ早く投資効果を実感したいというのが本音でしょう。買ってから2〜3カ月でスルスルと上がり、1・5倍とかになった時点で売

却して、お金が増えたことを実感したいですよね。

資金が何百倍にもなつて、いわゆる「億り人」になつた人の話もよく聞かれます。確かに、世の中には短期間で驚異的にお金を増やした人が存在します。数百万円の資金を元手に、それを数億にしてしまうような人も中にはいるのです。

中にはその手法を公開している人もいます。教えてもらえるのならば、その通りにやれば自分も大金を手に行けるのでは？　と思つてしまうことでしょう。

ところが、ここがとても難しいところなのですが、ほぼ100%同じようにはできないのです。

残念なことに、短期投資でうまくお金を回して増やし、なおかつその一部を安定・定期に運用して長期的な財産を築ける人はごく一握りです。

一時的にうまくいくことはあるかもしれませんが、でも長いスパンで見ただけで成功し続けるというのはとても難しいことなのです。

短期間で手っ取り早く資産を増やせれば、それに越したことはありません。私だっ

てそんな方法があるのなら知りたくらいです。

短期投資には再現性がない

投資の世界では「再現性」ということがよく言われます。投資でいう再現性とは、投資で一定以上の利益を得た人と同じ手法で同じ投資効果を狙うことを意味します。もしも同じような投資効果が上げられるのであれば「再現性がある」、上げられなければ「再現性がない」と評価されます。

短期投資で成果を上げ続けるのが難しいのは、ほとんどのケースで再現性がないからです。

なぜかというところ、株式市場はまるで生き物のように刻一刻と姿を変えていくからです。

個々の会社の状況も変化し続けていますし、株価に影響を与える世界情勢や為替、金融政策もしかりです。

短期投資で成功した人とまったく同じ状況で勝負するということはまずできません。

成功したのは、その人が短期投資をしたタイミングと手法のめぐり合わせがたまたまうまくいったと考えたほうがいいでしょう。

そのタイミングや手法をいくら学んだところで、あまり意味はありません。短期投資でうまくいく人は、何百万人分の一と考えたほうがいいでしょう。そのたった1人がやった方法とまったく同じ条件が、果たしてそろうでしょうか？ そして同じ成果を上げることができでしょうか？

「自分にはできない」と考えるほうが妥当だと思いませんか？

ところが、ものの本には「誰でも同じようにすれば何億もの資産が作れる」というようなことが書かれています。

そんなことはまずないと考えたほうがいいでしょう。

「人間は欲深い」ことを忘れない

もう1つ、お金に関して人の目をくらませるものがあります。それは誰の心にも存在する「欲」です。

人間は欲が深い生き物です。

仮に、投資の目的が「老後資金として5000万円作ること」だったとしましょう。短期的な投資が思いがけずうまくいき、すぐに5000万円の資産（含み益）が作れたとして、その時点ですべての投資商品を売却して利益確定ができるものでしょうか？ おそらくほとんどの人はできないでしょう。

「たったこれだけでこんなうまくいったのだから、これから先はもっと儲かるだろう」と考え、資産を大きくしようとし続けることでしょう。

しかし、同じ手法を続けたとしてもうまくいく保証はどこにもありません。相場は水物、常に動き変化しているからです。

「もしかして自分には投資の才能があるのかもしれない」と錯覚し、欲を出して大金を投資し、少なからぬお金を失ってしまった人を私は数多く見てきました。

投資は長期で行い、投資の目的を忘れないことが大事

投資で資産形成をしたいのであれば、長期投資が基本と考えてください。

また投資の目的を忘れないことも大切です。

何ごとも目標設定ができてはじめて、そこに至るまでのルートが見えてくるものです。

富士山に登頂しようとするとき、計画も立てず必要な装備も用意せず、むやみやたらに登り始める人はあまりいませんよね。

1日目の何時までに何合目へ、登頂は何日目の何時ごろ、とおおよその計画を立てるのではないのでしょうか。ただし、山頂に至るには、1歩ずつコツコツと歩みを進めることがいちばん大切です。

自分の足で歩かないことには、いつまでたっても山頂に立つことはできません。

長期投資もそれと同じことです。

まずは自分の登りたい山（＝目標額）を決め、その目標に到達するためには、いつごろまでにどれくらいの銘柄数・株式数が必要なのかを、段階的にあらかた決めておきます。

あとはコツコツ買い続けていくだけです。

長期投資という登山には、思いがけない「おまけ」がついてくる場合があります。株価が想定したより大きく値上がりしたり、株式分割などで持ち株数が増えて、想定した以上に資産額が大きくなったりする可能性があるのです。

あなたの長期投資という名の登山は今始まったばかり。これが将来、どんな姿を表してくれるのか、楽しみに待ちましょう。

プロ投資家の先を読む思考法●目次

はじめに

今、日本株が熱い！

投資は「長期」が原則と考えよう

短期投資には再現性がない

「人間は欲深い」ことを忘れない

投資は長期で行い、投資の目的を忘れないことが大事

第1章

市場の先読みには
長期思考が欠かせない

長期投資ならリスクが低減でき、持ち株数が増えることも

株式分割で株数が増えることも

3

3

6

8

9

10

24

26

第2章

この知識さえあれば 市場の先が見通せる

長期投資だったらなんでもいいというわけではない

27

戦前に買っていたら7万倍！ 驚異のパナソニック

32

セブン・イレブン開業当初のオーナーたちも億万長者に！

35

「将来爆発する銘柄」は常に存在する

37

リーマンショックのときでさえ、儲かった人がいるという事実

39

長期的に見ると相場は繰り返す。今こそがチャンス！

42

「買い」のタイミングは14年に1度

46

- 大きな数字を押さえることで、市場全体の規模が体感できる
—— 48
- 世界のGDPはどれくらい？
—— 49
- 日本のGDPは何%を占めている？
—— 52
- 数字を押さえておくと「真実」が見えてくる
—— 53
- 世界の時価総額を巨視する
—— 55
- 世界の負債を俯瞰する
—— 59
- 日本の産業の規模感を知ろう
—— 61
- 日本経済は製造業がけん引している
—— 66
- 産業のバリューチェーンの考え方を知ろう
—— 66
- 「ど真ん中の産業」は時代によって変わる
—— 71
- なぜ渋沢栄一は一時代を築くことができたのか
—— 72

主要産業の変遷をたどる

75

社会が「何かの出現」で変わるタイミングをつかむ

77

「ドットコムバブル」の教訓を活かす

79

日本語を自由自在に操れる生成AIが勝つ

81

大量のデータ送信で大きな役割を担う日本製の光海底ケーブル中継器

85

京都にロームや村田製作所ができた理由

87

AIで健康管理をする日がやってくる

88

第3章 市場の先を読むために必要なスキル

投資の三種の神器は「新聞」「指標ノート」「会社四季報」の3つ

92

第一優先順位は「新聞」

新聞購読が「紙」に限る理由

情報切り抜きは紙でなければ行えない

ステップ1 特定の漢字に注意しながら新聞の見出しを読むことに慣れる

ステップ2 「これは重要だ！」と思う記事に印をつけておく

ステップ3 1週間分を見返して「1日あたり3記事」に絞り込む

切り抜きに日付を入れる

切り抜き用ノートに貼る

切り抜きノートを使って勘を研ぎ澄ますトレーニングを

指標ノートを作って相場の流れを数字で実感する

指標ノートを手書きする理由

罫線を手書きしつつ1カ月を振り返り、妄想力を鍛える

指標ノートに記入すべきは11項目＋コメント	119
実は大事な「コメント欄」	121
案外役に立って面白い「東京新聞」	123
『会社四季報』をフル活用する	126
『会社四季報』を104冊読破	128
『会社四季報』を読むなら、断然、紙版がおすすめ	130
『会社四季報』を「読み物」として面白がれば◎	131
記者独自のコメントに注目する	133
最低限の数字もチェック	134
① 自己資本比率	135
② 営業キャッシュフロー	137

第4章

市場の先読み術を 最大化する投資判断とは？

③ 売上高

④ 営業利益率

138 137

相場を見るときは目線を遠くする

144

日本のバブルはこうして起こった

145

バブル崩壊の余波が長引く

149

日経平均とNYダウ平均のチャートは酷似している！

150

倍返しの可能性も

152

大底狙いは×、順張りが◎

154

景気は繰り返す

156

① キチンサイクル

158

② ジュグラーサイクル

159

③ クズネツツサイクル

160

④ コンドラチエフサイクル

160

景気動向指数をチェック

161

景気と株価サイクルとの関係…4種類の相場を押さえよ！

166

① 金融相場

166

② 業績相場

168

③ 逆金融相場

169

④ 逆業績相場

169

株価チャートの読み方を知ろう

171

株価チャートの仕組み

172

① ローソク足

173

第5章

市場の先読みには マインドセットも重要

ローソク足を見るとトレンドがわかる
大底での買い転換を示す「陽の抱き線」

三空

② 出来高

③ テクニカル分析指標

移動平均線

ゴールデンクロスとデッドクロス

株価チェックをやりすぎない

投資に悲観論は一切不要

2カ所で聞いた話には信ぴょう性がある

195

株式投資は何度でもやり直しができる

196

ナンピン買いではなく「値洗い」するのがマイルール

199

おわりに

203